

平成22年6月の熱中症による救急搬送の状況

総務省消防庁では、平成22年6月の熱中症による全国の救急搬送の状況を取りまとめたので、その概要を公表します。

【資料】

[平成22年6月の熱中症による救急搬送状況](#)・・・消防庁ホームページに掲載します。



(連絡先)
消防庁救急企画室
担当：長谷川・伊藤・渡邊(俊)
電 話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7539

平成22年6月の熱中症による救急搬送状況の概要

平成22年6月中の救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 背景

平成22年6月の前半は、梅雨前線が日本の南海上に停滞し、本州付近が移動性高気圧に覆われたため、北日本から西日本にかけては晴れの日が多く、沖縄・奄美では曇りや雨の日が多い状況でした。月の後半には梅雨前線は本州付近まで北上し、東日本、西日本では曇りや雨の日が多い状況にありました。

気温は、月のはじめ、寒気の影響により全国的に低温となりましたが、その後は気温が上がり、北日本から西日本にかけて月平均気温が高くなりました。特に、この時期としては顕著に暖かい空気に覆われた北日本では、26日に帯広で猛暑日となったほか、釧路では年を通じての日最高気温の最高値を更新しており、北海道での熱中症による救急搬送人員が全国と比較しても多くなっている要因と考えられます。

2 ポイント

- ・ 平成22年6月の全国における熱中症による救急搬送人員は2,276人でした。
- ・ 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者（65歳以上）が972人（42.7%）と最も多く、次いで成人（18歳以上65歳未満）963人（42.3%）、少年（7歳以上18歳未満）286人（12.6%）の順となっています。
- ・ 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く1,418人（62.3%）、次いで中等症684人（30.1%）、重症75人（3.3%）の順となっています。また、死亡も4人（0.2%）報告されています。

- ※ 軽 症：入院を必要としないもの
- 中等症：重症または軽症以外のもの
- 重 症：3週間の入院加療を必要とするもの以上
- 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの

3 その他

- ・ 熱中症を予防するには、暑さを避け、こまめに水分を補給し、急に暑くなる日には注意することなどが必要です。また、高齢者は温度に対する皮膚の感受性が低下し、暑さを自覚できにくくなるので、屋内においても熱中症になることがありますので注意が必要です。
- ・ 政府では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記のHPで熱中症の情報を提供しています。

環境省熱中症情報 http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/